

エコアクション21



環境省
エコアクション21
認証番号 0000053

2023年度環境経営レポート



レポート対象期間：2023年2月1日 ～ 2024年1月31日

発行日：2024年4月30日

— 目 次 —

組織の概要	P3
エコアクション21認証・登録範囲	P3
環境経営方針	P4
2023年度の環境経営目標	P5
2023年度環境経営目標活動計画	P6～P7
環境経営目標の2023年度の実績	P7～P12
①二酸化炭素排出量の削減	P7～P8
②廃棄物最終処分量の削減	P9
③総排水量の削減	P10
④化学物質使用量の削減	P11
⑤自社が生産・販売・提供する製品の環境性能 の向上及びサービスの改善	P12
⑥環境教育の充実	P12
⑦環境関連の法規制の遵守、使用禁止物質 の不使用の徹底を、継続する	P12
○その他	P12
環境活動記録	P13～P14
環境経営目標活動計画の取組結果とその評価 ・次年度の取り組み内容	P15～16
環境関連法規等の順守状況の確認及び、 評価の結果並びに違反・訴訴等の有無	P16
代表者による全体評価と見直し	P17



■組織の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

ユーザーエム株式会社

代表取締役社長

氏神 健司

(2) 所在地

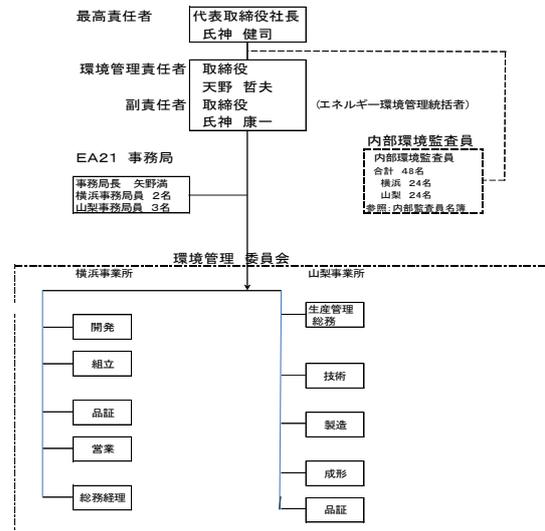
横浜事業所

神奈川県横浜市泉区和泉中央南3丁目2番46号

山梨事業所

山梨県南都留郡忍野村内野3018番地

(3) EA21実施体制



TEL:045-802-1111

FAX:045-805-1925

(4) 事業活動の概要

コネクタ部品・スイッチ部品・その他電子部品の製造。
プレス金型製作・モールド金型製作及び関連自動化機械製作。
各種組立設備・省力機器製作。

(5) 事業の規模 2023年度

売上高(会社全体)

40億円

従業員数

横浜事業所

78人

山梨事業所

169人

工場延べ床面積

横浜事業所

3611m²

山梨事業所

5673m²

■エコアクション21認証・登録範囲

認証・登録番号: 0000053

認証・登録事業者: ユーザーエム株式会社

所在地: 神奈川県横浜市泉区和泉中央南3-2-46

対象事業所: 横浜事業所・山梨事業所

認証・登録の対象活動範囲: 電子部品に使用される精密プレス部品及び
プラスチック成型部品の加工並びに関連部品の組み立て

■環境経営方針

資料 1

ユージーエム株式会社	EA21	制定日：2003. 12. 10
文書番号：QCM-020A	環境経営システム	改定日：2023. 2. 1
版番号：I		頁番号：1/1

環境経営方針

お客様に満足頂ける企業を目指すという、当社経営方針に基づき、電子部品の製造等の事業活動において、自然環境の保護、調和及び地域社会との協力を最重要課題の一つと位置付け、持続可能な社会の実現に向けて協力をしてゆきます。

そして、環境管理活動を推進していくことにより、コスト削減及び、利益率改善のチャンスと捉え、下記の事項を定める。

1. 環境関連の法規制を遵守する。また顧客要求による禁止物質不含有の環境品質を維持する。
2. 二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、総排水量、化学物質使用量の削減に努める。また生産・販売・提供する製品及びサービスでも環境負荷低減に取り組む。特に当社負荷の大部分を占める電気の省エネに取り組む。
3. 環境目標を定め、その実現を図り、毎年見直しを行い、環境経営システム及び品質マネジメントシステムの継続的な改善に努める。
4. 環境経営方針は、全社に伝達し、理解をさせる。また、従業員が環境保全の基本的な考え方を認識し、環境経営方針に沿った活動を行うように、従業員教育を行う。



2023年2月1日
ユージーエム株式会社
代表取締役社長
氏神 健司

2023年度の環境経営目標

資料6

ユージーエム株式会社 文書番号QCM-020A 版番号 : U	EA21 環境経営システム	設定日 : 2003.12.10 改定日 : 2023.2.1 頁番号 : 1/1
---------------------------------------	------------------	-------------------------------------------------

2023年度 環境経営目標

2023年度の環境経営目標を以下のように定める

1. 二酸化炭素排出量の削減。

中長期目標 : 2025年までに生産量原単位で1.2030t/k円以下にする。
2023年度目標: 生産量原単位値で、1.2309t/k円を超えないこと。
2023年度予測原単位値 1.2433t/k円

2. 廃棄物排出量の削減。

中長期目標 : 2025年度までに再生化率を総廃棄物排出量の50%以上にする。
2023年度目標: 再生化率を、総廃棄物発生量の20%以上にする。

3. 水使用量の削減。

中長期目標 : 2025年までに社員数原単位値で、2021年度の値を維持する。
2023年度目標: 2021年度社員数原単位値を維持する。
目標原単位値 1. 230m³/人

4. 化学物質使用量の削減。

中長期目標 : 2025年度まで、生産量原単位値で2021年度の値を維持する。
2023年度目標 : 2021年度を生産量原単位値を維持する。
目標原単位値 8. 30kg/kk円

5. 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上 及びサービスの改善

中長期目標 : お客様に満足の頂ける環境負荷に考慮した製品を、提供し続ける。
2023年度目標: 不具合削減・生産効率向上のための活動を行う。

6. 環境教育の充実。

7. 環境関連の法規制の遵守、使用禁止物質の不使用の徹底を、 継続する。

2023年2月1日
ユージーエム株式会社
代表取締役社長
氏神 健司

■ 2023年度環境活動計画

年度環境目標は、全10部門に展開され、部門の年度目標、活動計画を作成します。目標の1~3、6、7 は全部門で、4、5は主に関係する部門で展開します。また他に、部門独自の活動計画も実施されます。

1. 二酸化炭素排出量の削減

当社の二酸化炭素排出量の95%以上は電力消費なことから、デマンド管理を徹底させるとともに、空調設定温度を適切に管理し不要時の消灯を徹底させるなどして節電運動をさらに展開しました。

生産部門の稼働率・歩留り率を向上させることで、無駄な電力消費を抑制することに取り組みました。

2. 廃棄物排出量の削減

生産部門では、歩留り率・不良率を改善することで廃棄物削減を目指すとともに、パージ材等の廃プラスチックの再生化に取り組みました。

業者へ梱包材不使用の依頼や、梱包材を再利用することで廃棄物を削減しました。他に裏面使用、両面コピー、電子化推進等で、コピー用紙削減に努めています。

3. 総排水量の削減

掲示等による節水意識向上運動で、使用水量の減少を目指しました。

山梨事業所では冬季の凍結防止ヒーターを活用するとともに、水道メーターを定期的に確認することで、漏水の早期発見に努めました。

4. 化学物質使用量の削減。

山梨製造部門では、プレスオイルの使用量削減に取り組みました。

5. 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及び、サービスの改善。営業部門では、パッキングリストの集約により、紙使用量削減を実施しました。

技術部門、成形部門では、樹脂使用量の削減ができました。

生産管理部門では、3製品に対しダンボールリールのプラダン化しました。

6. 環境教育の充実。

6月の環境月間には全社員へのマイクロプラスチックの教育と、各部門は年2回以上の環境教育を実施しました。

7. 環境関連の法規制の遵守、使用禁止物質の不使用の徹底を、継続する。

法令台帳の整備と遵守状況確認等により、法令の遵守を確実にします。

社内で禁止物質の不使用を徹底するとともに、顧客要請の環境品質の維持・向上に努めてゆきます。

■環境経営目標の2023年度の実績

① 二酸化炭素排出量の削減。

13 気候変動に
具体的な対策を



■エネルギー使用量(2023年度)

	【全社合計】		【横浜事業所】		【山梨事業所】	
電力	5,489	kkWh	626	kkWh	4,863	kkWh
灯油	1,370	L	0	L	1,370	L
LPG	554	kg	148	kg	406	kg
ガソリン	13,671	L	8,626	L	5,045	L
軽油	58	L	0	L	58	L

■二酸化炭素排出量 過去6年間の推移

購入電力の排出係数=0.474 kg-CO2/kWh 全ての年度で使用

年度	【全社合計】		【横浜事業所】		【山梨事業所】		原単位値
2019	3,023	t	404	t	2,619	t	0.9147
2020	2,816	t	392	t	2,424	t	1.0826
2021	2,863	t	404	t	2,459	t	0.9507
2022	2,661	t	329	t	2,332	t	0.9777
2023	2,639	t	317	t	2,322	t	0.9758

■2023年度実績の2022年度比

目標は、生産量原単位値で1.2309t/k円を超えないこと。

	二酸化炭素排出量			原単位値
	【全社合計】	【横浜事業所】	【山梨事業所】	【全社合計】
22年度比	99.1 %	96.3 %	99.6 %	99.8 %
	減少	減少	減少	減少

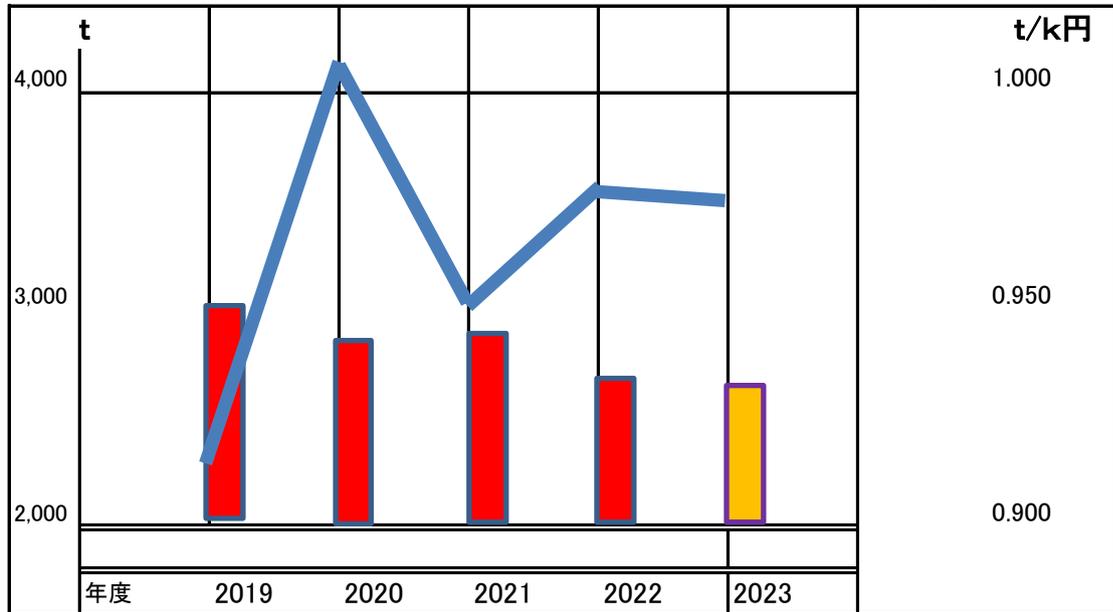
注：原単位値 = 二酸化炭素排出量 ÷ (売上 - 外注加工費)

2023年度目標は、達成となりました。

■二酸化炭素排出量、原単位値の5年間の推移

↓ 全社排出量: 棒グラフ

↓ 原単位: 折れ線



横浜事業所



山梨事業所



② 廃棄物量排出量の削減。

横浜事業所

・品質保証 市場クレーム及び社内外不適合発生件数の削減

前期 2件

後期 0件

通期 2件 目標 0件以下 未達成

・組立 10126H3.030P 歩留り率 99.0% 未達成

48P 歩留り率 98.5% 達成

10136ソケット 歩留り率 97.5% 達成

10136プラグ 歩留り率 97.5% 達成

・廃プラスチック回収率向上。(分別の徹底)

山梨事業所

・品質保証 不良発生抑制による廃棄物の削減

流出不良・工程内不良 前期 302件

前期 27件

後期 24件

全体 51件 目標24件以下 未達成

・製造 歩留り率 ワースト10アイテム歩留まり改善

前期 84.4%

後期 89.0%

通期 85.8% 目標 95%以上 未達成





③ 総排水量の削減。

年度	【全社合計】	【横浜事業所】	【山梨事業所】
2019	3,671 t	1,165 t	2,506 t
2020	3,156 t	1,113 t	2,043 t
2021	3,645 t	1,138 t	2,507 t
2022	3,597 t	1,164 t	2,433 t
2023	3,369 t	1,129 t	2,240 t

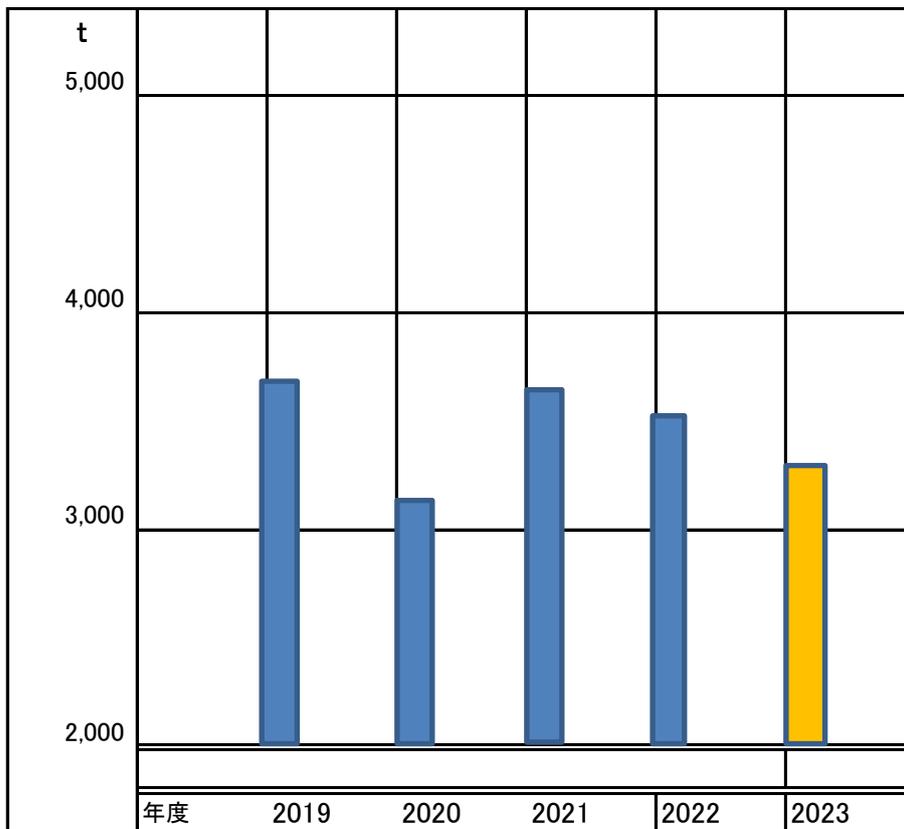
	【全社合計】	【横浜事業所】	【山梨事業所】	
22年比	92.1 %	97.0 %	92.1 %	目標未達成

目標は、21年度社員数原単位値(1.230m³/人)を維持すること。

年度	【全社合計】	【横浜事業所】	【山梨事業所】
2022	1.288 m ³ /人	1.293 m ³ /人	1.200 m ³ /人
2023	1.194 m ³ /人	1.325 m ³ /人	1.137 m ³ /人

2023年度目標は、達成となりました。

■ 総排水量の、5年間の推移



④ 化学物質使用量の削減。

年度	横浜事業所	山梨事業所	合計
2022	268 Kg	17910 Kg	18178 Kg
2023	175 Kg	10857 Kg	11032 Kg

12 つくる責任
つかう責任



生産量原単位

2023年度目標 2021年度の生産量原単位値を維持する。(8.30Kg/KK円)
2022年度 6.678 Kg/KK円 2023年度 4.23 Kg/KK円 目標達成

製造部門では、工作油の塗布方法を検討中。
臭素系洗浄剤の使用量が、前年比46.8%と大幅に削減しました。

⑤ 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能向上及びサービスの改善。

■営業部門

営業車の燃料消費効率を改善し、CO2排出量を削減しました。

■技術部門、成形部門

技術部門では、新たな金型加工方法を検討し加工時間の短縮を目指しました。
また、社内化効率の向上に努めました。
成形部門では、ページ時のスクラップ削減に取り組み、577Kg削減しました。
また、層間紙も2099Kgを再利用いたしました。

■生産管理部門

グリーン購入82%以上の目標に対し、89%と目標を達成した。

⑥ 環境教育の充実。

■各部門で、計画に基づいて、全部員に環境教育を実施しました。

一般研修1:全社員対象の環境経営方針・環境経営目標・活動計画について。

一般研修2:全社員対象の汚染物質拡散等について。

新入社員対象の、一般的な環境教育について。

管理職研修:管理職対象の環境経営の戦略的重要性について。

■ECO検定試験は、今年度はコロナ禍の影響で受験はしませんでした。

ECO検定試験合格者の能力向上を目的に、内部監査員又は環境管理委員として積極的に活躍をしてもらいました。

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



⑦ 環境関連の法規制の遵守、使用禁止物質の不使用の徹底を、継続する。

■環境関連の法令を法令台帳にまとめて、全社に徹底、遵守しています。
又、法令改訂等の情報を把握し、関係部門に徹底しています。
法定の定期報告書提出は3件、法定の非定期報告書の提出は3件でした。

■顧客要求の禁止物質管理を徹底しています。
全製品を対象にし、禁止物質を含む材料、資材、副資材等は、社内に持ち込みません。
顧客要求の環境関連調査書提出は、2023年度は66件でした。

○ その他

■子供エコ活大作戦

毎年横浜市の、「子供エコ活大作戦」に協賛し、WFP国連世界食料計画より感謝状を受けています。



営業：梱包仕様の見直しにより、梱包材使用量削減や再利用を実施することで
廃棄物の減量化を実施。

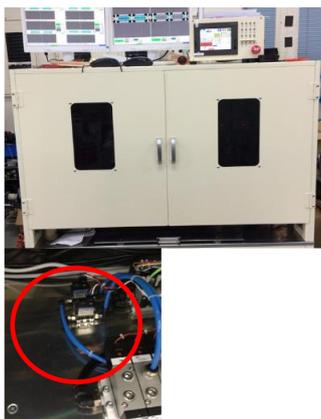


環境活動記録

営業：プラスチック台車使用による、木屑(パレット)減量化

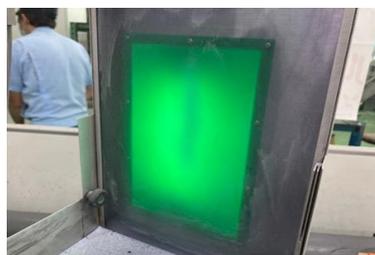
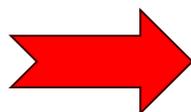


開発：新規設備へのパルスブロー導入標準化。



GB35D及びGB35Fの成形後画像検査機2台

技術：機器のLED化推進



組立：トップテープの定数管理水平展開



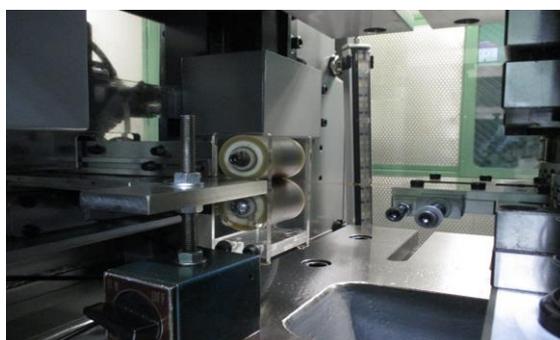
総務経理：工場緑化活動



総務経理：地域清掃活動



製造：工作油の削減 噴霧式からローラー式に変更



成形：パージ材の再生化



5Sパトロール活動

旧配電盤を新設することで、無駄な電力の削減させ、安全性も向上した



エアー漏れパトロール 横浜事業所・山梨事業所



品質保証：検査装置照明のLED化



全部門：リサイクルの推進 分別の徹底



■環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

① 二酸化炭素排出量の削減。

2023年度目標：生産量原単位値で、1.2309t/k円を超えないこと。

中長期目標：2025年までに生産量原単位で1.2030t/k円以下にする。

結果と評価：原単位値が0.9758t/k円と大幅に目標を達成しましたが、山梨事業所の増築に伴う電力使用増加分を多く想定したことが影響しています。

次年度の取組：稼働率・不良率・歩留り率を向上することで、無駄な電力使用を抑え、再生可能エネルギーの導入も、検討してゆきます。

② 廃棄物最終処分量の削減。

2023年度目標：再生化率を総廃棄物排出量の20%以上にする。

中長期目標：2025年度までに再生化率を総廃棄物排出量の50%以上にする。

結果と評価：再生化率は総廃棄物排出量の37.4%と、目標を達成した。
廃プラスチックの擬木化が、大きく影響した。

次年度の取組：ゴミの分別をさらに徹底させ、再生化率を向上させる。
さらに廃プラスチックの削減に取り組む。

③ 総排水量の削減。

2023年度目標：2021年度社員数原単位値を維持する。目標原単位値 1.230m³/人

中長期目標：2025年までに社員数原単位値で、2021年度の値を維持する。

結果と評価：節水対策が困難な中、山梨事業所社が8%の削減ができたことにより、年度目標達成となった。
節水対策も進み今後の削減は困難が予想される。

次年度の取組：山梨事業所の冬季配管凍結防止対策が、削減のカギとなります。
また、節水意識の向上に対する取り組みを継続したい。

④ 化学物質使用量の削減。

2023年度目標：2021年度の生産量原単位値を維持する。目標原単位値 8.30kg/kl

中長期目標：2025年度まで生産量原単位値で、2021年度の値を維持する。

結果と評価：化学物質の使用量が39.4%と大幅に減少したため、目標を達成しました。

次年度の取組：プレス加工油の塗布方法を改善し、使用量の削減を目指したい。

⑤ 自社が生産・提供する製品及びサービス。

2023年度目標： 不具合削減・生産効率向上のための活動をおこなう。

中長期目標： お客様に満足の頂ける環境負荷に考慮した製品を、提供し続ける。

結果と評価： 仕事に直結した目標に取り組むことで、活発な活動ができた。

生産部門では、歩留り率・稼働率・不良率の改善に取り組みました。

技術部門では、作業効率を上げることにより、環境負荷低減に取り組みま

生産管理部門では、グリーン購入に成果を上げています。

次年度の取組： 引き続き仕事に直結する目標を設定し、活動の活性化を図りたい。

事務局と各部門の関係を強め、目標を達成する取り組みを

引き続き進めてゆきます。

■環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、 訴訟等の有無

水質汚濁物質、騒音・振動、廃棄物処理、地下水揚水、大気汚染物質等の適用される法令を遵守しています。必要な定期報告書の届出も確実に実施しております。

行政による立入り調査は、ありませんでした。

環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。また、訴訟や近隣住民からのクレーム等も、ありません。



■ 代表者による全体評価と見直し

見直し時の留意点

- * 2023年度は、環境経営方針の内容に改訂の必要性は無いものとする。
- * 山梨事業所新工場立ち上げによる電力使用量の増加を考慮し、目標値を設定する。
 - ・2022年度電力使用量の130%を想定
- * 環境経営目標には、目指すべき目標値を具体的に明記したほうが良い。
- * 引き続き取り組み項目に関しては、各部門と事務局にて打ち合わせる事。
- * 再生可能エネルギーに関しても、調査をすること。
- * 業務に直結した目標を設定し、活発な活動を維持してほしい。

代表者見直し結果

計画は遅れないようにし、前倒しになるぐらいで進めること。

生産の中心は山梨事業所なので、横浜事務局と山梨事業所の連絡は密にするようにしてほしい。

前年度活動報告が結果のみの報告になっており、原因と対策を含めた報告にすること。

ISO・IATFの活動と連携した、会社の発展につながる有意義な環境活動にしてゆくこと。

以上